

報恩抄

御文①

御書新版……214番 4行目～11行目
御書全集……294番 9行目～15行目

いかんがせんと疑うところに、一つの願を立つ。我、八宗・十宗に隨わじ。天台大師の専ら経文を師として一代の勝劣をかんがえしがごとく一切経を開きみるに、涅槃經と申す経に云わく「法に依つて人にいらざれ」等々。「法に依つて」と申すは一切経、「人に依らざれ」と申すは、仏を除き奉つて外の普賢菩薩・文殊師利菩薩乃至上にあぐるところの諸の人師なり。この経にまた云わく「了義経に依つて不了義経に依らざれ」等々。この経に指すところ、「了義経」と申すは法華経、「不了義経」と申すは華嚴經・大日經・涅槃經等の已今当の一切経なり。されば、仏の遺言を信するならば、専ら法華経を明鏡として一切経の心をばしるべきか。

現代語訳①

どうすればいいかと思い迷つて、私は一つの誓願を立てた。「自分は八宗や十宗には従わないでおこう」と。天台大師（智顥）が経文だけを師匠として釈尊の全經典の勝劣を判断したように、あらゆる経に目を通してみると、涅槃經という経には「法を依りどころにしなさい。人を依りどころにしてはならない（依法不依人）」とある。「法を依りどころにする」の「法」というのはあらゆる経のことであり、「人を依りどころにしてはならない」の「人」というのは、仏以外の、普賢菩薩や文殊師利菩薩から始まって、先に挙げた諸宗の学者に至るまでの人々のことである。

この涅槃經には「了義経を依りどころにしない。不了義経を依りどころにしてはならない」ともある。この経の趣旨からすると、「了義経」というのは法華経であり、「不了義経」というのは華厳經・大日經・涅槃經などといった、已今当のあらゆる経である。

それ故、仏の遺言を信するなら、法華経だけを曇りのない鏡として、あらゆる経の真意を知らなければならぬのである。

御文②

御書新版……216~5行目～12行目
御書全集……295~17行目～296~6行目

法華経の法師品に、釈迦如來、金口の誠言をもつて五十余年の一切經の勝劣を定めて云わく「我が説くところの經典は無量千万億にして、已に説き、今法華経は最もこれ難信難解なり」等々。この經文は、ただ釈迦如來一仏の説なりとも、この經文いで信すべき上、多宝仏東方より来つて「真実なり」と証明し、十方の諸仏集まつて釈迦仏と同じく広長舌を梵天に付け給いて後、各々国々へ還らせ給いぬ。「已今當」の三字は、五十年ならびに十方三世の諸仏の御経一字一点ものこさず引き載せて法華経に対して説かせ給いて候なり。十方の諸仏この座にして御判形を加えさせ給い、各々また自國に還らせ給いて我が弟子等に向かわせ給いて「法華経に勝れたる御経あり」と説かせ給わば、その所化の弟子等信用すべしや。

法華経の法師品には、釈尊が真実の言葉によつて、自ら五十年余りにわたつて説いたあらゆる經の勝劣を判定して「私が説く經典は無量千万億であり、すで（已）に説いたし、今も説いているし、これからもまさ（当）に説くだろう。これらの中で、この法華経こそ最も難信難解なのである」とある。

この經文は、釈尊一仏だけの説であつたとしても、等覚の菩薩以下のすべての人々は尊重して信すべきである。その上、多宝仏が東方から来て、釈尊が説かれたことを「真実である」と保証し、十方の世界の仏たちも集まり、釈尊と同じように広く長い舌を梵天まで伸ばして正しさを保証されて、その後、それぞれ自分の國土へ帰られたのである。

この「已今當」の三文字は、釈尊の五十年にわたる諸經、また十方の世界の三世の仏たちの經を一字も残さずに挙げて法華経と対比して説かれたものである。

それに対して十方の世界の仏たちが、この法華経の説法の座で保証のために署名されたのに、それぞれ自らの國土に帰られてから、「自分の弟子たちに向かつて「法華経より優れた經がある」ともしお説きになつたら、その教えを受ける弟子たちは信用するだろうか。

現代語訳②